



洋上アルプス

No.360 令和7年度

9月



2025年09月16日（火曜日）～19日（金曜日）インターンシップの受け入れ

長崎大学、宮崎大学の3年生2名を農林水産省就業体験実習（インターンシップ）として受け入れ、屋久島森林生態系保全センター及び屋久島森林管理署の業務等について体験実習を行いました。

初日は、当保全センター下村所長から業務概要を説明したあと、世界自然遺産地域の現地に赴き、屋久島の特徴的な植生の垂直分布等を実際に観ながらその特色を学習してもらいました。

2日目、3日目は、現地において、森林生態系の保全対策（希少種保護、外来種対策、モニタリング調査）、気象観測データ収集、ヤクシカ被害対策、各種森林パトロール、レクリエーションの森の保全・利用、昨年の台風で倒伏した弥生杉の保全等について実習を行いました。

最終日は、屋久島森林管理署において、業務概要の説明や森林調査等に関する森林官業務の説明を受けたあと、貯木土場では土埋木の生産について、事業実施箇所では各事業の実施状況について学習してもらいました。

実習生からは、「屋久島は森林資源の生産と豊かな自然の保全とが同時に行われている島であることを強く認識した。地杉の伐採や出荷といった資源利用の現場と、生態系の保護やヤクシカ対策といった保全活動の現場を両方見学することで、生産と保全が対立するものではなく両立させながら進められている現実を学ぶことができた。また、署で勤務する若手職員との意見交換会を通じて、業務の実態や仕事への取組みについてお話を聞くことができた。」との感想をいただきました。

当保全センターでは、現地を含めた実習を通して国有林業務を理解していただき、参加者から職業選択の一つとして林野庁を選んでいただけるよう、引き続き、屋久島森林管理署と連携してインターンシップの受入をしていきたいと考えています。



シカ罠の説明（左）、切り株更新の説明（中）、災害復旧工事の説明（右）

2025年09月11日（木曜日）～12日（金曜日）

「屋久島森と人との共生ビジョン」策定協議会及びワーキング会議の開催について

9月11日（木曜日）、屋久島森と人との共生ビジョン策定協議会、翌12日（金曜日）に同ワーキング会議が屋久島町役場で開催されました。

本協議会は、屋久島町の森林が将来にわたって持続可能な社会づくりに貢献できるよう、森林の保全と利用についての明確なビジョンを策定するために、学識経験者、地域関係者、行政関係者等により新たに設置されたものです。



協議会の様子（屋久島町役場）

初日の協議会では、事務局から、協議会及びワーキング部会設置の目的、スケジュール、策定内容が説明されたあと、森林・林業・木材産業に係る課題整理、同ビジョンの骨子案の提案がありました。

参加者からは、「森林を保全する側と林業を生業とする側が地に足をつけた議論をして欲しい」、「民有林は伐期を迎えた森林が増える一方で、島外出荷に伴う補助金の更なる充実が必要である」、「保全と利用のバランスをとることが重要である」など活発な意見が出されました。

二日目のワーキング会議では、各行政機関及び各林業事業体、地域の各団体等の実務担当者が出席しました。事務局から、ゾーニングの目的と方法について共通の認識をもっていただき、検討を進めるにあたっての基盤づくりとしたい等との提案がありました。参加者からは、「子供たちが森林・林業に関わる仕事などを体験できるエリア（ゾーニング）が無い。植林体験等を含めたエリアがあれば観光客も違った屋久島を見られる。ガイドの方と連携し体験できる場。」など、屋久島の林業について、次の世代を担う子供たちに向けた環境教育の充実や、観光との連携による相乗効果を期待する話題など、多種多様な意見が出されました。今後もゾーニング方法等について議論が交わされるものと考えます。

第2回のワーキング会議は11月4日（火曜日）に開催される予定となっており、本協議会では、来年度中の策定に向けて、メンバーによる協議を重ねていくこととしています。

当保全センターとしては、屋久島の土台となる前岳人工林地帯は大変重要な役割を担っていると考えますので、屋久島の森林生態系を維持し、次の世代に引継げるよう、森林環境教育等を中心に地域と連携し取組んでいくこととしています。

2025年09月08日（月曜日）

宮崎大学と琉球大学の学生が弥生杉（倒木）の現状見学

宮崎大学と琉球大学は、楠川の人工林伐採地林縁への植生調査区の設定及び調査等のため、学生11名を含む総勢13名で屋久島を訪れました。琉球大学高嶋助教授から、学生に白谷雲水峡の案内をして欲しいとの依頼があり、当保全センター奥村自然再生指導官が弥生杉（倒木）を現地案内しました。

学生は、地元の森林植生との違いなどを学習しながら歩道を登り、切り株上に更新した二代杉やイスノキの大きさに興味津々の様子でした。倒木した弥生杉の前では、奥村自然再生指導官より倒伏の経緯やその後の取扱などを説明しました。

倒伏後の周囲の植生等については、当保全センターでモニタリングしていくこととしており、調査方法について高嶋助教授からアドバイスを頂きました

今回の屋久島研修最終日（9月10日）には琉球大学のメンバー7名で、ヤクスギ林固定試験地（島内に5箇所設定）のうちヤクスギランド内にある「天文の森試験地」のメンテナンスを行うとのことでした。

当保全センターでは、引き続き5大学連携に基づく取組へ協力していくこととしています。



白谷雲水峡の説明（左）、弥生杉の説明（中）、憩いの大岩にて（右）